

What's New

このページでは、以前のバージョンでは使用できなかった、InfoWorks® WS Pro 2023.1 に新しく導入された追加機能、改良点を全て説明します。

バグの修正に関する詳細は [リリースノート](#) をご覧ください。

システム水頭曲線シミュレーションが実行可能に

ランタイプ **System head curve simulation** が **水理ランスケジュール** ダイアログで使用できるようになりました。このランタイプのオプションは、**システム水頭曲線** ダイアログで設定することができます。

このタイプのシミュレーションは、ポンプの水頭流量曲線を提案します。この分析結果は、最終的な管網設計において適切なポンプタイプを選択し、ポンプ能力の計画を立案する際に便利です。このランタイプは、ポンプを配置する場所を決定するのではなく、既存のポンプに対して水頭流量曲線を生成するものです。

システム水頭曲線は異なる時間に対して作成することが可能であり、結果は**システム水頭曲線レポート** とポンプ操作ページに表示されます。

消火用水量分析の実行時にシナリオが選択可能に

消火用水量分析 の実行時に、**水理ランスケジュール** ダイアログにて、シミュレーションに使用するシナリオを 1 つ選択できるようになりました。これにより、結果の比較機能がさらに強化され、ノード水圧から見込まれる消火用水量を確認したり（Fire flow availability 分析）、水圧条件の範囲内で必要最小限の消火用水量を給水できるか否かを判断したり（Hydrant testing 分析）することが可能です。また、単一の消火用水量の目標ポイントに対して選択した流量をテストする（Forced fire flow 分析）ことも可能です。

並列 2 次モデル（2RA）のパラメータと方程式が更新

並列 2 次モデル（2RA）の **水質シミュレーション** を行う際の **溶質データオブジェクト** ダイアログのパラメータと方程式が更新されました。特に、MSQ Solutes、MSQ Constants、MSQ Variables が修正されています。2RA の機能は、配水システム内の残余をシミュレーションする包括的なバルク塩素減衰モデルです。このオプションを選択すると、この分析に適切な値が溶質データオブジェクトダイアログにあらかじめ入力されます。

結果をユーザーフィールドにコピー可能に

結果をユーザーフィールドにコピー オプションを使用すると、選択したオブジェクトタイプのユーザーナンバーフィールドに結果フィールドをコピーできるようになりました。このオプションは、**需要エリアグリッドビュー**を右クリックし、コンテキストメニューから **結果をユーザーフィールドにコピー** を選択すると、**結果をユーザーフィールドにコピー** ダイアログが表示されます。

需要エリア分析結果グリッドの更新

需要エリアグリッドウィンドウ が更新され、計算フィールドが追加されました。追加されるフィールドは、Adjusted Average Minimum Night flow、Unprofiled Demand Properties、Calculated Specific Consumption、Unaccounted for Water、Background Losses、Excess Unaccounted for Water です。これらのフィールドが追加されたことで、上水道システムにおける水需要の分析がさらに強化されました。

水理ランスケジュールビューの更新

水理ランスケジュールビュー が変更され、操作性が改善されました。

- バージョン 2023.1 以降、保存 または ラン をクリックするまでパラメータ設定メッセージが生成されなくなりました。
- ランによって結果が生成されると、そのランは整合性を維持するために読み取り専用へ変わるようになりました。Experimental が設定されている場合、ランダイアログは編集可能です。ランを編集するには、単にランの名前を変更します。これにより、編集、保存、シミュレーションが可能な新規ランが作成されます。以前は保存時に名前の変更が必要でしたが、このバージョンでは編集前に名前の変更が必要になりました。基本的な機能に変更はありません。

v2023.0 以降のバージョンのデータベースがサポートされるように

これまで InfoWorks WS Pro の新バージョンをインストールすると、その新バージョンのデータベースのみがサポートされているため、**マスターデータベース** や **移動可能データベース** をそのバージョンへ更新する必要がありました。最新バージョンのソフトウェアでは、複数バージョンのデータベースが使用可能となったため、2023.0 以降のバージョンのデータベースを使用している場合は、この更新作業が不要になりました。

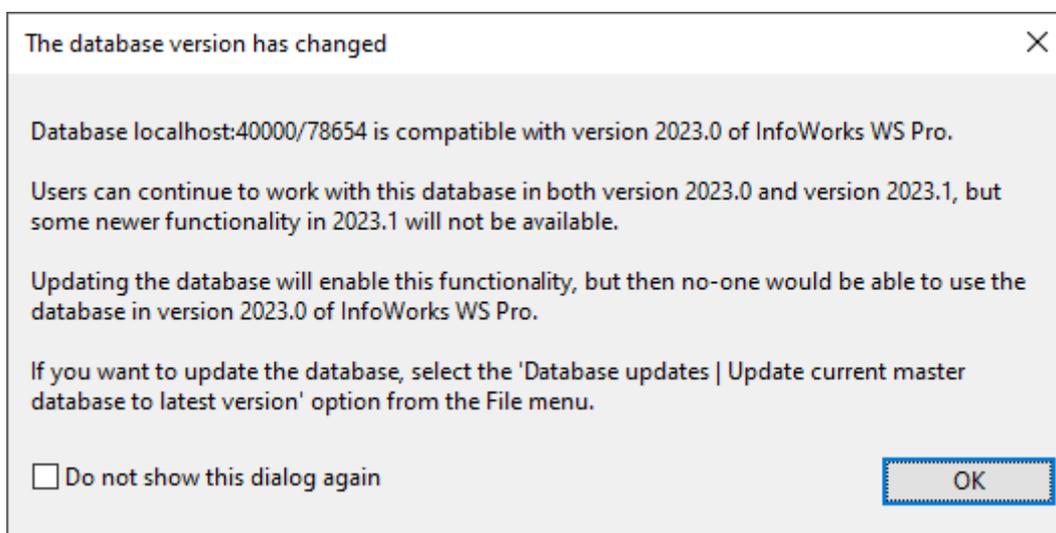
最新バージョンよりも古いバージョンのデータベースを使用する場合、ソフトウェアの最新バージョンで使用可能な機能全てにはアクセスできない可能性があります。新機能を使用できるかどうかは、その機能が最新バージョンのデータベースでのみ使用可能なデータベーステーブルやフィールドを必要とするかどうか、あるいは結果に影響を与える可能性がある変更がなされているかどうかによって異なります。このような制約は、新しいデータベースアイテムやプロパティが追加されているために生じることがあります。ただし、データベースや結果に関連しない機能、例えばパフォーマンスの向上などは、古いバージョンのデータベースを使用していても、得られます。

例えば、使用しているソフトウェアのバージョンが 2023.1 で、2023.0 のマスターデータベースを開いた場合、新しく追加された **システム水頭曲線シミュレーション** は表示されません。この新しいオプションを表示したい場合、またはデータベースバージョンによる制約がある新機能を使用したい場合は、2023.0 データベースを 2023.1 に **更新** する必要があります。マスターデータベースを更新すると、古いバージョンのソフトウェアにてそのデータベースを使用することはできません。

異なるバージョンのデータベースのサポートは、バージョン 2023.0 以降のデータベースに対してのみ使用可能です。

データベースバージョン変更ダイアログ

新しくインストールされたバージョンの InfoWorks WS Pro を開くと、新しい **ダイアログ** が表示されます。



このウィンドウでは、現在のマスターデータベースはこの新バージョンと互換性があるものの、最新バージョンではフォーマットが変更されていること、また最新のデータベースバージョンへ更新することで新機能が使用できるようになることが記載されています。

また、このダイアログを再度表示するかどうかを選択するためのチェックボックスも含まれています。チェックボックスにチェックをしない場合（デフォルト）、このダイアログは次に最新版よりも古いマスターデータベースを開いたときに表示されます。

このダイアログは、これまで InfoWorks WS Pro の新バージョンをインストールした際に表示されていた、[データベースの更新](#) ダイアログに代わって表示されるものとなります。

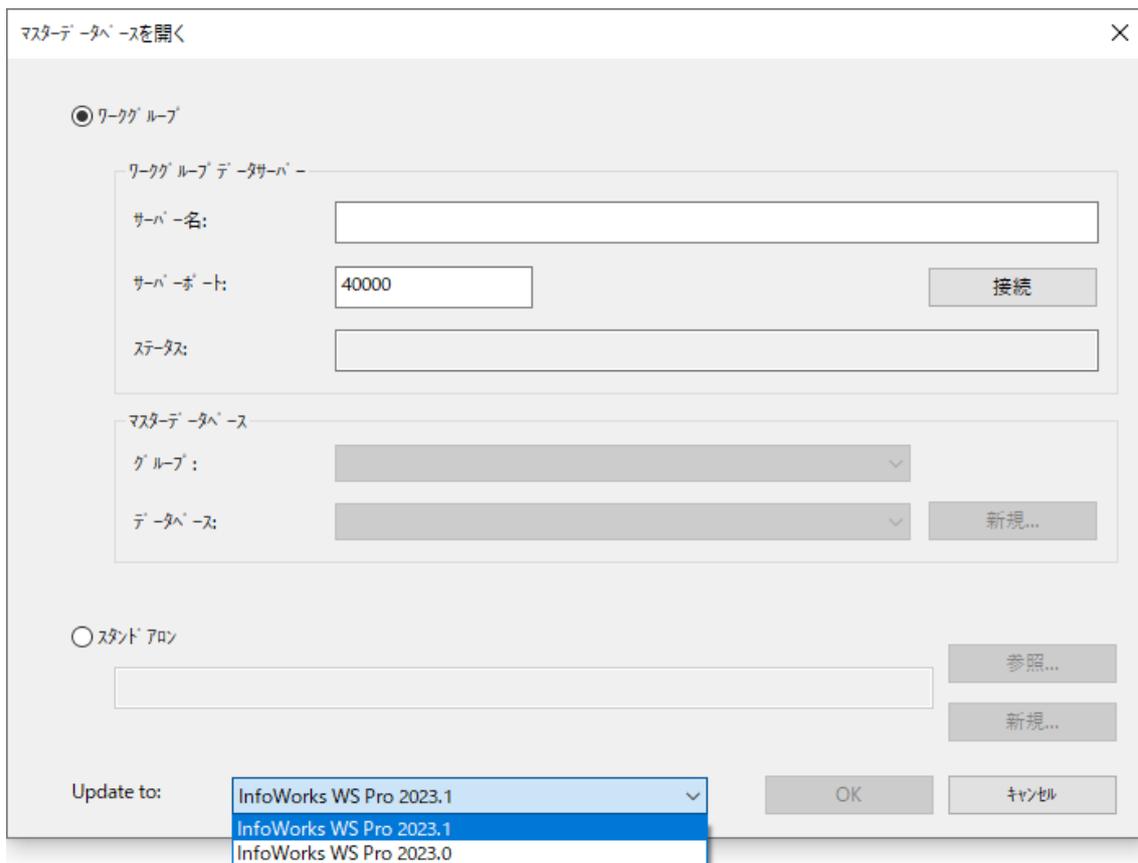
標準マスターデータベースの最新バージョンへの更新

ファイル | データベースの更新 メニューに、**Update current master database to latest version** オプションが追加されました。このオプションは、現在選択されている標準のワークグループまたはスタンドアロンマスターデータベースを最新バージョンに更新します。以前は、[マスターデータベースを開く](#) ダイアログから対象のデータベースを選択する必要がありました。データベースを最新版に更新すると、2023.1 で使用可能な全機能にそのデータベースの全ユーザーがアクセスできるようになりますが、更新されたデータベースを古いバージョンのソフトウェアで使用することはできなくなります。

詳細は [Master Databases](#) をご覧ください。

標準のマスターデータベース更新時にバージョン選択が可能に

標準のワークグループまたはスタンドアロンのマスターデータベースを更新する際、マスターデータベースをどのバージョンに更新するか選択できるようになりました。[マスターデータベースを開く](#) ダイアログに、**Update to** ドロップダウンメニューが新たに追加されました。選択されたバージョンへとデータベースが更新されると、そのデータベースの全ユーザーがそのバージョンで使用可能な機能全てにアクセスできるようになりますが、古いバージョンのソフトウェアでは更新されたデータベースを使用できなくなります。

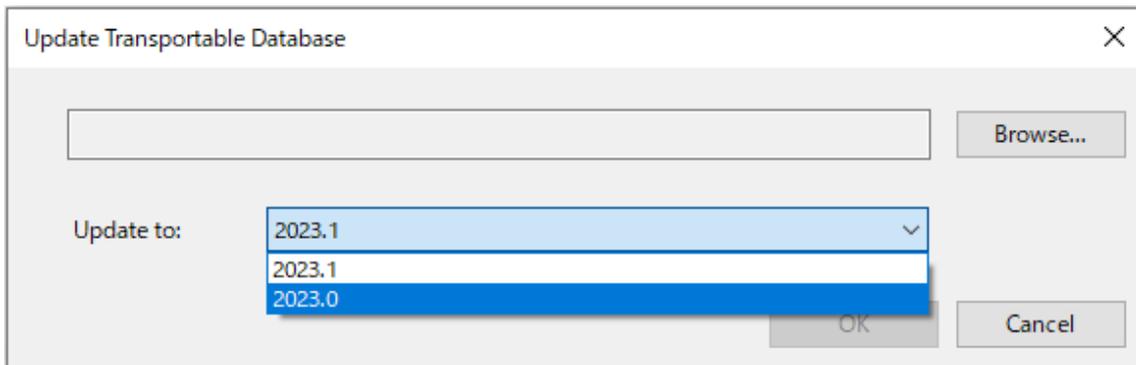


異なるバージョンのデータベースのサポートは、データベースのバージョン 2023.0 以降でのみ使用可能なため、更新可能なバージョンとして選択できる最も古いバージョンは 2023.0 となります。

詳細は [Master Databases](#) をご覧ください。

移動可能データベース更新時のバージョン選択が可能に

移動可能データベースを更新する際に、移動可能データベースをどのバージョンに更新するか選択できるようになりました。[ファイル | データベースの更新](#) メニューから [移動可能データベースの更新](#) オプションを選択すると、新しいダイアログ [移動可能データベースの更新](#) が表示されるようになりました。このダイアログでは、**Browse** ボタンを使用して対象の移動可能データベースファイルを選択し、**Update to** ドロップダウンリストを使用してどのバージョンへ更新するか選択することが可能です。



異なるバージョンのデータベースのサポートは、データベースのバージョン 2023.0 以降でのみ使用可能なため、更新可能なバージョンとして選択できる最も古いバージョンは 2023.0 となります。

詳細は [Transportable Databases](#) をご覧ください。

新規マスターデータベース/移動可能データベースのバージョン選択が可能に

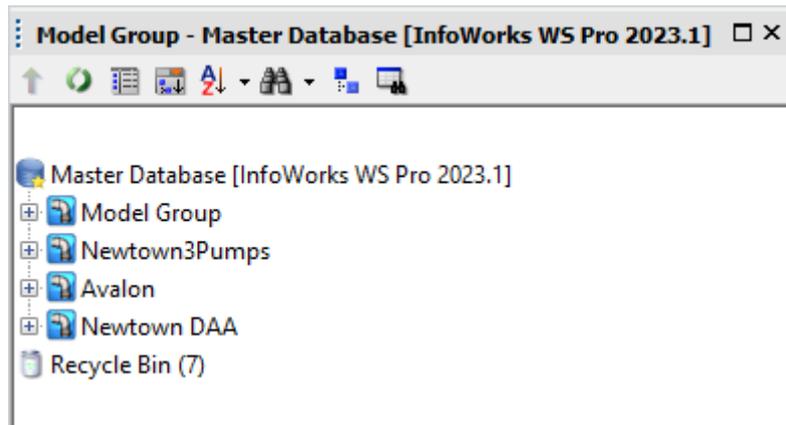
InfoWorks WS Pro の各メジャーリリースには、データベースの新バージョンが含まれています。以前は、新しく **マスターデータベース** または **移動可能データベース** を作成すると、自動的に最新バージョンのデータベースが作成されていました。例えば、ソフトウェアのバージョン 2023.0 で作成されたマスターデータベースまたは移動可能データベースは、データベースのバージョンが 2023.0 になります。バージョン 2023.1 では、新しいマスターデータベースや移動可能データベースを作成する際に、どのバージョンのデータベースを使用するか選択できるようになりました。これは、異なるバージョンの InfoWorks WS Pro を使用しているユーザーと共同作業を行う場合に、便利なケースがあります。

データベースのバージョンを選択できるよう、**新規マスターデータベース** ダイアログと、移動可能データベースの新規作成時に表示される Windows 標準の名前を付けて保存ダイアログに、新しく **Database version** ドロップダウンメニューが追加されました。

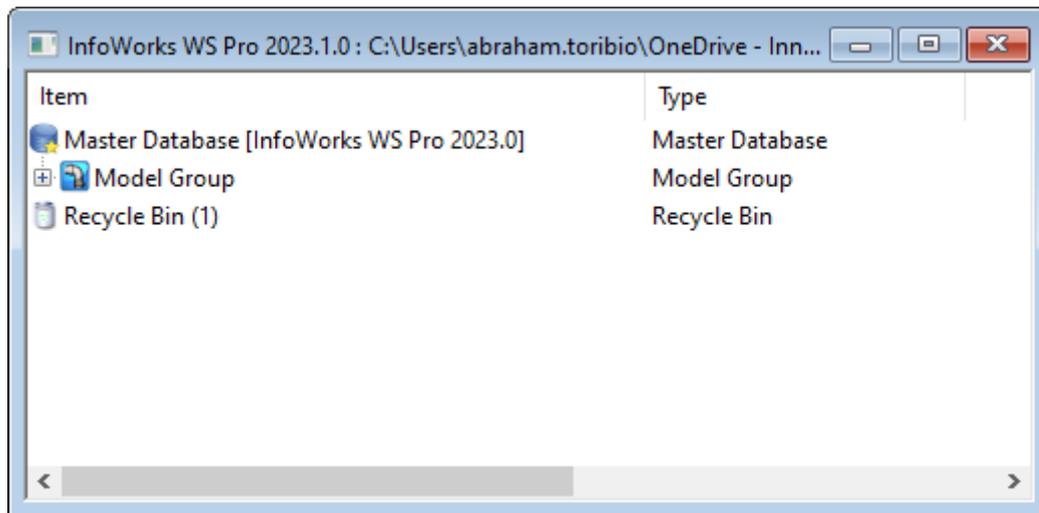
異なるバージョンのデータベースのサポートは、データベースのバージョン 2023.0 以降でのみ使用可能なため、更新可能なバージョンとして選択できる最も古いバージョンは 2023.0 となります。

データベースのバージョン番号が表示されるように

使用しているマスターデータベースのバージョンを容易に把握できるように、**モデルグループウィンドウ** と **エクスプローラーウィンドウ** のタイトルとツリービューにバージョン番号が表示されるようになりました。



現在のバージョンではない移動可能データベースは、バージョン番号がウィンドウのタイトルとツリービューに表示されるようになりました。一方、読み取り専用の移動可能データベースのバージョン番号は、ツリービューに表示されなくなりました。



バージョンが異なるデータベース間のデータコピー

バージョンが異なる [データベース間でのデータコピー](#) は、これまでと同じ方法で可能です。古いバージョンのデータベースからコピーしたデータを新しいバージョンに貼り付けることはできますが、新しいバージョンのデータベースから古いバージョンへのデータコピーは、その古いバージョンのデータベースをコピー元の新しいデータベースと同じバージョンに更新しない限り、できません。

以前のバージョンの新機能や改良については、過去の新機能リストをご覧ください。